

## 研究の社会的責任

授業科目名	研究の社会的責任	単位数 2 単位
英語標記	social responsibility of researching activities	
授業コード	360116	
受講人数	30 人	
担当教員	高田 珠樹	
対象	全研究科博士前期・修士課程院生、社会人（5名程度）	
開講時間等	第1学期＝金曜2限（4月16日～）	
開講場所	豊中キャンパス：大学教育実践センター共通C405	
キーワード	研究、大学院、大学改革、歴史、現代社会	
授業の目的	1 大学院や大学院進学者が、アカデミックな研究が現代の社会状況や文脈の中でどのような位置におかれているかを進学当初から常に意識し、自分たちの知識や能力、専門性をどのような方向に伸ばし、またそれを活用するかについて考える機会を持つ。 2 様々な分野、専攻、出身大学の学生たちが会することで、自分とは違った研究背景を持つ人たちに自らの関心や専門知を説明することを通して、自分自身について相対的、多元的な見方を養う。	
講義内容	授業で取り上げようとしている主題や論題 ■ 大学院で何をするのか、何をしようとしているのか ■ 現代日本の大学改革、現在の大学院の状況 ■ それぞれの学部や研究科でどんなことをしているのか ■ 現代社会と世界の状況 ■ 履修者たちが紹介する自分の研究。質疑応答	
教科書	なし	
参考書	講義時に適宜紹介する。	
成績評価	出席と報告による。	

### 授業の趣旨

どんな組織や機関も、何らかの期待や要求を背負っています。大学とそこで行われる研究に対しても、当然、それらを取り囲む社会や時代からの期待や要求があり、またその組織の中にいる学生・院生からの、あるいは学生をそこに通わせる人たちの期待や要求があります。時にはそれらが互いに異なっている、場合によっては互いに対立することもしばしばです。期待や要求に対して応えること、どう応えるか、それが責任ということだと言えます。どの要求に応えようとするかで、責任のあり方もまた異なってきます。また、要求や期待に応える、責任を負うとは、今の社会からだけではなく今は亡き人たちの思いを受け継ぎ、今まだこの世にいない人たちの思いを汲むことでもあります。この授業の中では、社会や歴史の広がりの中で、大学院に学ぶことの意義や責任を議論したいと考えます。

今日、大学院を取り巻く状況が大変厳しいことは皆さんもご存じの通りです。分野や専攻によっても違いますが、大学などでの研究職を得る可能性は低くありません。歴史的に見て、あるいは世界から見て、現在の日本の大学、大学院の状況とは、どのようなものなのか、どういった経緯でこのような状況が生まれてきたのでしょうか。こういった点についてもいくらか見取り図を得たいと考えます。

さらに、昨今、世界は、経済的にも極めて厳しい状況にあり、研究職に限らず、それ以外でも安定した仕事に就くことが容易でなくなっています。この中で、私たちがいる時代とは、どういう時代なのか、それを考えつつ、今日、大学院で学んだことを社会に還元する方策について一緒に検討してみたいと思います。自分たちの知識や能力を、今後の人生において広い枠組の中で活かすことを模索するひとつの切っかけとなることを念じています。